

International Symposium Academic Research Organization: Role and Best Practices

—AROの役割・より良い支援体制・持続的な運営を考える—

慶應義塾大学病院 臨床研究推進センターは、2014年から橋渡し研究支援拠点として、文部科学省(当時)、国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)の橋渡し研究戦略的推進プログラムから支援を受け、研究開発支援活動を進めて参りました。橋渡し研究戦略的推進プログラムは来年度以降、新たな事業体制としての開始に向け、再編が進められております。橋渡し研究戦略的推進プログラムが一旦終了となるこの節目の年度において、ARO(academic research organization)の価値はどこにあるのか、より効果的な研究開発支援を行うためにはどのような体制を目指せば良いのか、研究開発支援体制を維持・充実させていくにはどのように経済的に自立化していけば良いのか、を考えるシンポジウムを開催いたします。

当シンポジウムでは、まず海外の実例から学びを得ることを目的として2人の演者の先生からご講演をいただきます。UC San Diegoの橋渡し研究支援機関であるAltman Clinical and Translational Research Institute (ACTRI)のDirectorであるDr. Gary S. Firesteinから、臨床研究支援組織の変貌への挑戦

についてご講演いただきます。また、米国コロラド州を拠点に、コロラド州立大学発の技術導出支援や日米企業間・産学間の技術マッチングコンサルタントをされている松浦洋子氏より、コロラド州立大学での開発支援体制や、産学連携活動等についてご講演いただきます。その後、日本の大学のライセンス支援機関の先駆的存在である、株式会社東京大学TLOの本多聡氏から、導出活動と大学への還元、IP戦略、日本の産学連携の現状等についてご講演いただきます。

最後に、日米の大学のアカデミア発研究開発に精通されているスタンフォード大学バイオデザインプログラムディレクターの池野文昭先生から、日本のAROの進むべき方向性についてご提言をいただき、いくつかの論点について、ラウンドテーブルディスカッションを進行していただきます。

大学の研究支援機関・運営部門関係者、病院関係者に広くご参加をいただき、米国の大学の研究支援体制の事例やラウンドテーブルディスカッションでの議論から、日本のAROのより効果的な支援を提供できる、持続的な運営体制構築において、考えるヒントを得ていただければ幸いです。

プログラム

10:00 開会の挨拶

松本 守雄

慶應義塾大学病院 病院長、慶應義塾大学医学部整形外科教室 教授

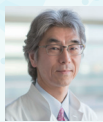


Keynote Lecture

座長

副島 研造

慶應義塾大学病院 臨床研究推進センター 副センター長、TR部門長 教授



池野 文昭

スタンフォード大学 バイオデザインプログラムディレクター



10:05-10:50

Translational Research Supporting System at ACTRI

Gary S. Firestein, MD

Senior Associate Vice Chancellor for Health Sciences Director,
Altman Clinical & Translational Research Institute, UC San Diego



[Lecture Overview]

Developing an integrated clinical research enterprise requires institutional commitment to change. Some of the obstacles to centralizing infrastructure, team science, shared resources and improving efficiency will be described as well as change management approaches. Creation of the ACTRI, in particular, helped the institution navigate through this journey. Resources, sustainability and processes required to accomplish those aims will be discussed.

10:50-11:30

コロラド州立大学の取り組み、コロラドでの導出活動

松浦 洋子

Integrated Global Solutions LLC, International project coordinator



[講演概要]

IGSは米国コロラド州フォートコリンズを拠点に日米の大学や企業が開発した先端技術の有効性と価値を見極め、インターナショナルプロジェクトコンサルタントとして大学・企業間での共同事業に向けたマッチングを行い、社会に役立つ技術の導出を実現している。国際的な競争力が求められる研究開発から事業化に向けての道筋を、「コロラド州立大学の人体解剖学教室で開発された医療VR」を例に挙げて紹介。さらに大学で開発された技術が事業化により、どのように大学や支援組織に還元されるのかを解説。日米間で文化の違いはあるものの、少しでも日本の研究開発支援機関の今後の取り組みの参考になれば幸いです。

11:30-11:40 休憩

11:40-12:10

東京大学TLOの導出活動と大学への還元によるエコシステムの構築

本多 聡

株式会社東京大学TLO ライセンスグループマネージャー
国際認定技術移転プロフェッショナル(RTTP)



[講演概要]

東大TLOの導出活動と大学への還元、IP戦略、実績、日本の産学連携の現状、人材育成、等についてご紹介させていただきます。

ラウンドテーブルディスカッション

進行

副島 研造 慶應義塾大学病院 臨床研究推進センター 副センター長、TR部門長 教授

12:10-12:20 ディスカッションに向けた提言(小括)

池野 文昭 スタンフォード大学 バイオデザインプログラムディレクター

[講演概要]

日米のアカデミア発医療技術開発支援の豊富な実績や、日米の規制当局のプロジェクト参画の経験を通じて感じる、日本のAROの現状や方向性について私見を述べる。

12:20-13:00 ラウンドテーブルディスカッション

～AROの持続的な運営：日米の違いを踏まえた上で、日本のAROで何に取り組めるか～

パネリスト

荒川 義弘

筑波大学医学医療系教授、筑波大学つくば臨床医学研究開発機構長、
筑波大学附属病院病院長補佐



戸谷 由布子 慶應義塾大学研究連携推進本部 特任准教授



池野 文昭、松浦 洋子、本多 聡

13:00 閉会の挨拶

長谷川 奉延

慶應義塾大学病院 副病院長、臨床研究推進センター長、
慶應義塾大学医学部小児科学教室 教授



演者紹介



松本 守雄

慶應義塾大学病院 病院長、慶應義塾大学医学部整形外科教室 教授

[略歴]

1986年3月慶應義塾大学医学部卒業、その後、慶應義塾大学医学部整形外科助手を経て1998年9月米国Albany医科大学留学。帰国後、慶應義塾大学医学部整形外科専任講師、准教授を経て2015年1月より教授(教室主任)。2017年8月慶應義塾大学病院副病院長、2021年9月慶應義塾大学病院病院長



副島 研造

慶應義塾大学病院 臨床研究推進センター 副センター長、TR部門長 教授

[略歴]

1989年慶應義塾大学医学部卒業。医学博士(慶應義塾大学)。1993年慶應義塾大学医学部呼吸器内科へ入局。1997年米国Harvard大学Dana-Farber Cancer Instituteへ留学。2001年帰国後、慶應義塾大学医学部呼吸器内科助手、講師、准教授を経て、2015年現職。専門分野:呼吸器内科学、肺癌のテーラーメイド医療、分子標的治療薬の開発・薬剤耐性機序の解明、癌免疫療法、トランスレーショナルリサーチ



池野 文昭

スタンフォード大学 バイオデザインプログラムディレクター

[略歴]

自治医科大学卒業。2001年からスタンフォード大学循環器科での研究を開始し、米国医療機器ベンチャーの研究開発、動物実験、臨床試験等に関する。医療機器分野での豊富なアドバイザー経験を有し、日米の医療事情に精通している。医療機器における日米規制当局のプロジェクトにも参画し、国境を超えた医療機器エコシステムの確立に尽力している。スタンフォード大学では、2014年から、Stanford Biodesign Advisory Facultyとして、医療機器分野の起業家養成講座で教鞭をとっており、日本版Biodesignの設立にも深く関与。日本にもシリコンバレー型の医療機器エコシステムを確立すべく、精力的に活動している。



Gary S. Firestein, MD

Senior Associate Vice Chancellor for Health Sciences
Director, Altman Clinical & Translational Research Institute,
UC San Diego

[Biography]

Gary S. Firestein, MD, is Director of the Altman Clinical and Translational Research Institute and the Senior Associate Vice Chancellor for Health Sciences at UC San Diego. Dr. Firestein's research interest focuses on the pathogenesis and treatment of rheumatoid arthritis (RA). He was among the first to map the cytokine profile of RA and demonstrate the dominance of macrophage and fibroblast products. These studies played a pivotal role in the development of highly effective anti-cytokine therapies for RA. More recently, his research has included studies to evaluate immune dysfunction in individuals at risk for developing rheumatoid arthritis. Dr. Firestein serves as Editor-in-Chief of Firestein and Kelley's Textbook of Rheumatology. He has been elected to the American Society for Clinical Investigation and the Association of American Physicians and was awarded a Doctor of Science (hc) from University of Glasgow in 2019.
<https://medschool.ucsd.edu/about/leadership/Documents/Firestein-Gary-bio.pdf>



松浦 洋子

Integrated Global Solutions LLC, International project coordinator

[略歴]

1988年 東海大学海洋学部水産学科水産資源開発課程卒業
1988年 株式会社ダイエー本社商品企画開発部
(自社ブランド商品の開発及び米国店舗企画開発)
1995年 渡米後シアトルを拠点にチェーンストアへのマーケティングコンサルタント
1996~1999年 Prestance Corporation, Export Manager
(商品開発及び日本への食品輸出)
2001~2005年 Sundecor USA, Inc設立運営
(日米間で工業製品の輸出とマーケティング)
2008年~Integrated Global Solutions(IGS),
LLC設立運営(国際プロジェクトコンサルタント)
Particle Cancer Therapy Foundation設立運営(2014~2017年)



本多 聡

株式会社東京大学TLO ライセンスグループマネージャー
国際認定技術移転プロフェッショナル(RTTP)

[略歴]

2004年 明治大学理工学部工業化学科卒業
2004~2006年 ジャパン・エア・ガシズ(現日本エア・リキード)
2007年~ 株式会社東京大学TLO
2015年~ ライセンスグループマネージャー



荒川 義弘

筑波大学医学医療系教授、筑波大学つくば臨床医学研究開発機構長、
筑波大学附属病院 病院長補佐

[略歴]

エーザイ株式会社創薬研究所(脳神経領域)主幹研究員、マックスプランク精神医学研究所客員研究員、東大医学部准教授・附属病院分院薬剤部長、東大病院臨床研究支援センター副センター長・病院教授を経て、2015年より現職。その間、東大のセンターやT-CReDOの立ち上げ、国立大学附属病院臨床研究推進会議等の立ち上げを行った。T-CReDOでは、つくばから生まれた医療シーズの育成・開発を推進しています。PMDA科学委員会委員、厚生省薬事・食品衛生審議会医療機器・体外診断薬部会委員、同再生医療等製品・生物材料安全部会委員等を歴任。



戸谷 由布子

慶應義塾大学研究連携推進本部 特任准教授

[略歴]

1999年慶應義塾大学 法学部法律学科卒業後、2003年のはる総合法律事務所を経て2012年TTS法律会計事務所設立。2014年帝京大学大学院 公衆衛生学研究科(公衆衛生大学院)修了。2018年帝京大学医学部 衛生学公衆衛生学講座(博士課程)単位取得満期退学。2019年~現職。2012年~公益財団法人がん研究会有明病院 臨床研究倫理審査委員会(IRB)外部委員、2018年~日本大学医学部附属板橋病院 臨床研究倫理審査委員会(IRB)・臨床研究審査委員会(CRB)外部委員。
弁護士、博士(医学)、公衆衛生学修士。



長谷川 奉延

慶應義塾大学病院 副病院長、臨床研究推進センター長、
慶應義塾大学医学部小児科学教室 教授

[略歴]

1984年弘前大学医学部卒業。
1984年慶應義塾大学医学部小児科学教室へ入局。
1992年Stanford University、1997年~2000年Duke University, University of Texas Southwestern Medical Centerに留学。
2000年帰国後、慶應義塾大学医学部小児科学教室講師、准教授を経て2013年より教授。2015年慶應義塾大学病院副病院長。
2021年慶應義塾大学病院臨床研究推進センター長。

International Symposium

Academic Research Organization: Role and Best Practices

—AROの役割・より良い支援体制・持続的な運営を考える—

日時: **2022年3月12日(土) 10:00~13:00**

形式: ウェブによるオープンシンポジウム

対象: 大学の研究支援機関・運営部門関係者、病院関係者、
その他AROの活動にご興味のある方

参加: 要登録、参加無料

主催: 慶應義塾大学病院 臨床研究推進センターTR部門(担当: 松岡)

参加申し込みは、下記URLまたはQRコードより、
本イベント参加フォームへアクセスしてお申し込みください。

https://keio-univ.zoom.us/webinar/register/WN_WM0dL0pvQ-KmUmahm-hHqw



お問合せ先 Tel 03-5363-3474(内線63744), Mail apply-tr@ctr.hosp.keio.ac.jp

本拠点は国立研究開発法人医療研究開発機構 革新的医療技術創出拠点プロジェクト 橋渡し研究戦略的推進プログラムの支援を受け、運営されております。